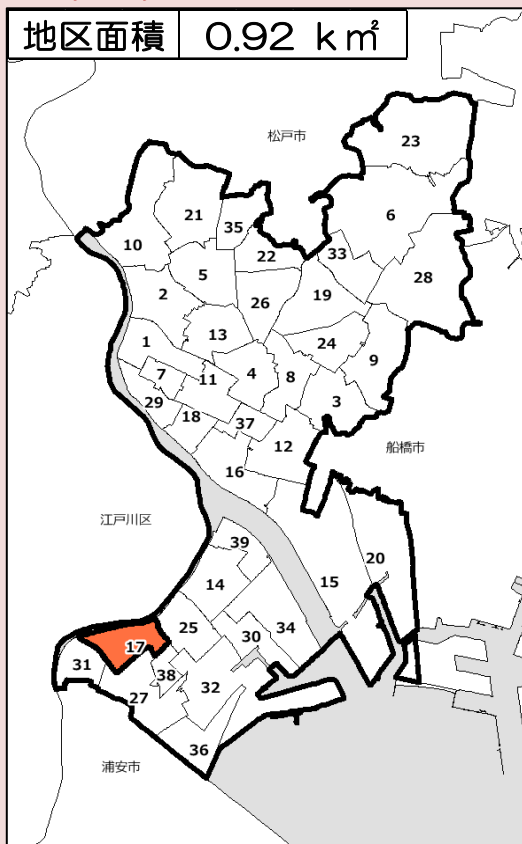


17 南行徳小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

南行徳小学校区は市の南西部に位置し、地区の北西側は旧江戸川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、低地の砂州・砂丘、氾濫平野で構成されています。地区は第一種中高層住居専用地域等の住宅地になっており、マンション等が多く建ち並んでいます。

◆都市基盤

地区内の南側は、土地区画整理事業により整備されています。地区の中央には東西にかけて県道6号線が通っています。また、地区の南側には東京メトロ東西線が通っており、地区外の南側に南行徳駅が近接しています。地区内には、妙典駅から東京ベイ浦安市川医療センター行きの市川市コミュニティバスも通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

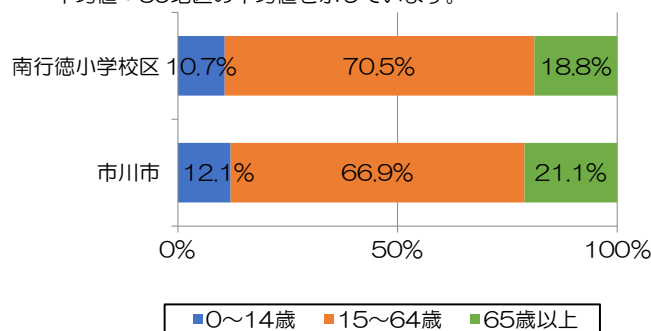
年齢別割合

	南行徳小学校区	市川市	割合*
人口総数	18,672人	487,621人	3.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,503人

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

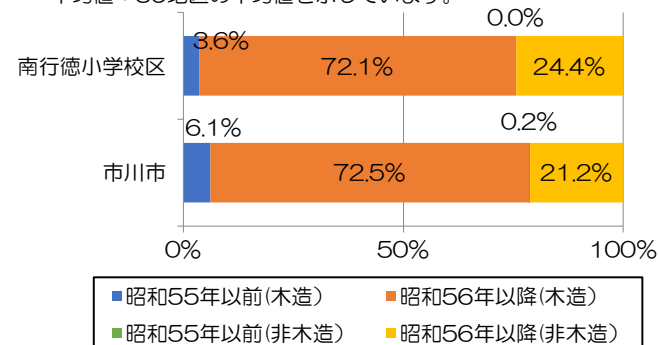
構造別割合

	南行徳小学校区	市川市	割合*
建物総数	3,329棟	114,958棟	2.9%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,948棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



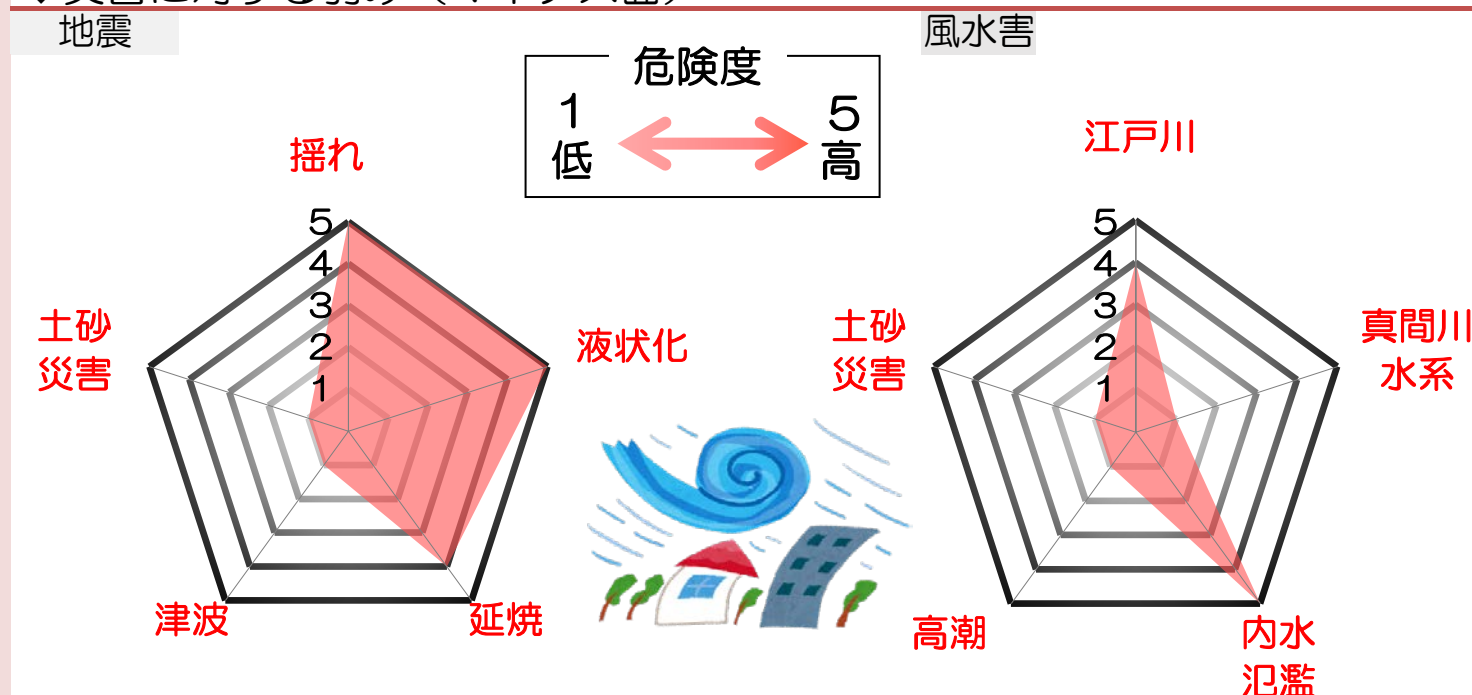
地区の人口は、全地区の平均人口より多いです。また、市全体と比較すると15~64歳の割合がやや高く、若い世代が多い地区となっています。

地区の建物は、全地区の平均棟数よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

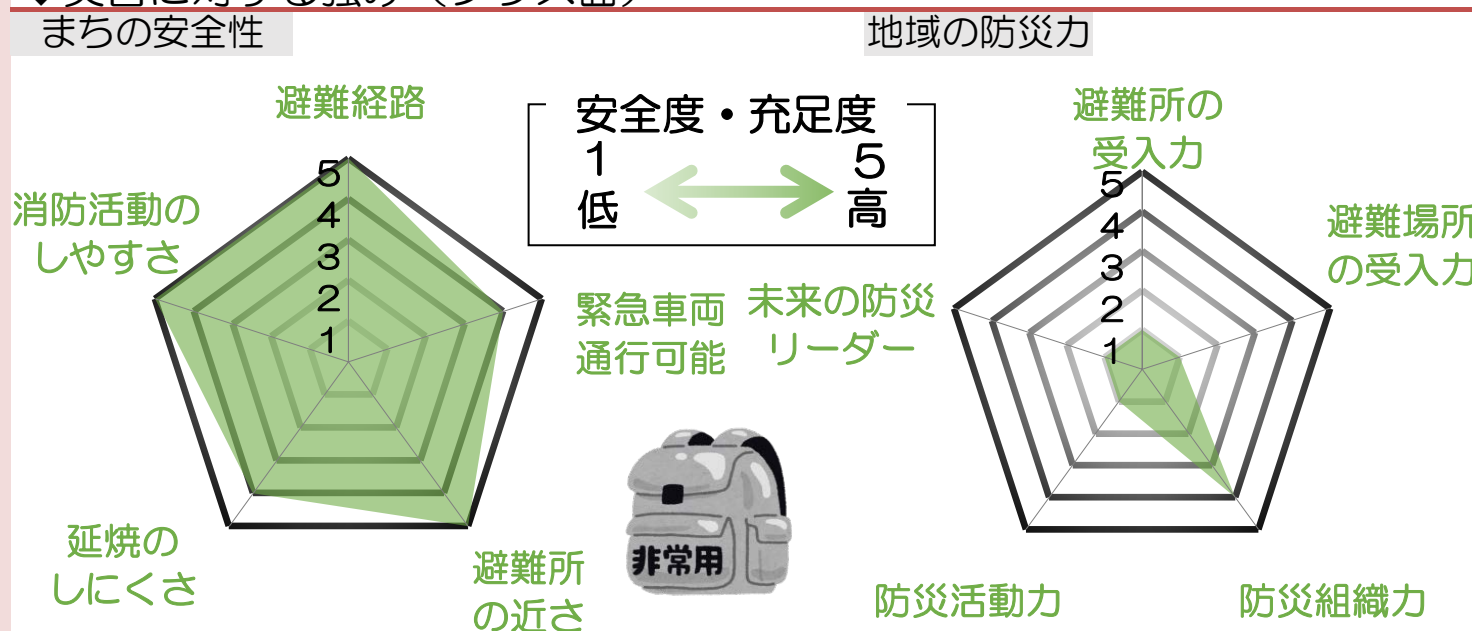
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも1となります。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

南行徳小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れや液状化、延焼による危険性が高い傾向にあります。また、風水害については、旧江戸川に面していることから、江戸川の氾濫、低地であることから内水氾濫の危険性も高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、特に、避難経路及び緊急車両通行可能、消防活動のしやすさが高い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所・避難場所の受入力や防災活動力は、低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
南行徳小学校	-		
南行徳公民館	○		
南行徳老人いこいの家	○		

◆避難場所

名称
南行徳小学校

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	香取保育園		医療救護所	南行徳小学校
	相之川こども館		関連施設	今井橋交番
	南行徳デイサービスセンター			香取交番
			-	
			-	

要配慮者利用施設(民設)
14



※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示しています。

(6) 被害想定結果(地震・風水害)

◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	南行徳小学校区	市川市全体	
建物被害	全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	6.7%	3.3%
	半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	23.5%	15.6%
	焼失棟数の割合	4.1%	5.5%
	浸水棟数(津波)の割合	0.0%	1.0%
人的被害	死者の割合	0.1%	0.1%
	負傷者の割合	11.9%	7.3%
	避難者の割合	0.9%	0.9%



◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	南行徳小学校区	市川市全体	
建物被害	浸水棟数(江戸川)の割合	92.8%	52.0%
	浸水棟数(真間川)の割合	0.0%	13.6%
	浸水棟数(内水)の割合	54.7%	20.5%
	浸水棟数(高潮)の割合	0.0%	1.5%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、強い揺れや液状化の影響もあり、建物被害は多い傾向になっています。また、人的被害については、死者、避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや多くなっています。
一方で、風水害については、江戸川氾濫や内水氾濫による影響が大きくなっていることから、市全体と比較して浸水棟数も多くなっています。

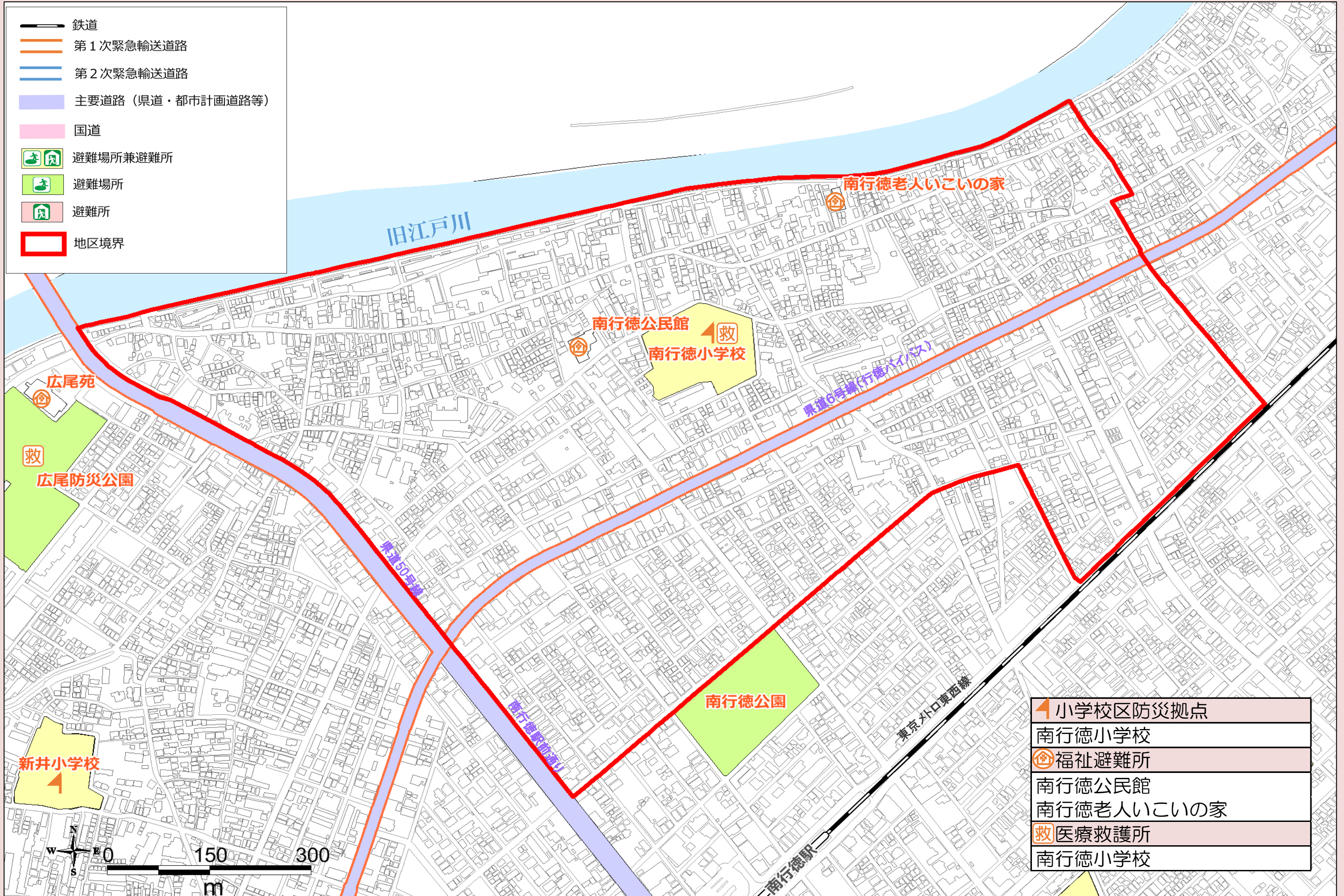
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域で震度6強の強い揺れが予測され、揺れや液状化、延焼による危険性が高いことから、耐震対策やライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策、延焼対策等が重要です。
風水害	地区の北西側に旧江戸川が面していることから江戸川の氾濫による浸水被害の恐れ、低地であることから内水氾濫による浸水被害の恐れもあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内では、まちの安全性は総じて高い傾向にあるものの、緊急車両が通る道の確保や延焼対策が重要です。
地域の防災力	地区内では、避難場所・避難所の充足度が低いことから、自宅での在宅避難や地区外での避難に備えることが重要です。また、防災活動力が低くなっているため、地区内の防災活動力を高めていくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	地区内では、道路の広さなど比較的充実していますが、確実に緊急車両が通る道の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止と、日頃から安全なルートを確認しておくことが効果的です。 また、災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 地区内の防災リーダーの数等、災害時に活動力となる人材が少ないため、地域で積極的に防災教育のイベント等への参加を行い、地区内の防災リーダーの育成を進めていくことが必要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等を予め洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 また、避難所及び避難場所の受入力が低いことから、近隣地区の避難場所や避難場所も確認し、避難する場所をあらかじめ決めておく必要があります。 緊急車両が通行できない可能性があることから、救急医療品等あらかじめ準備しておくことが必要です。

(9) 防災マップ

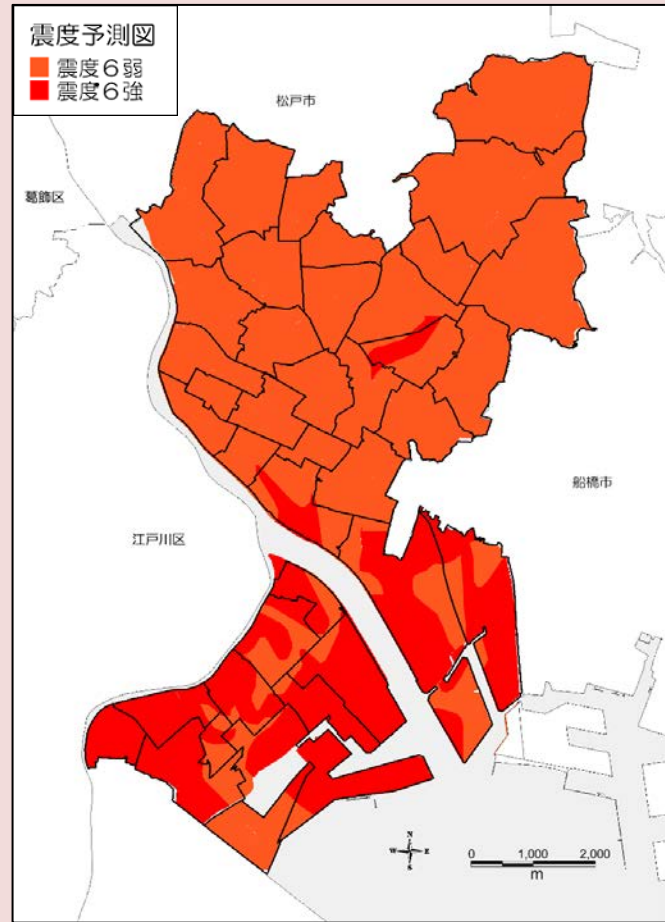


- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 主要道路（県道・都市計画道路等）
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

- 小学校区防災拠点
- 南行徳小学校
- 福祉避難所
- 南行徳公民館
- 南行徳老人いこいの家
- 医療救護所
- 南行徳小学校

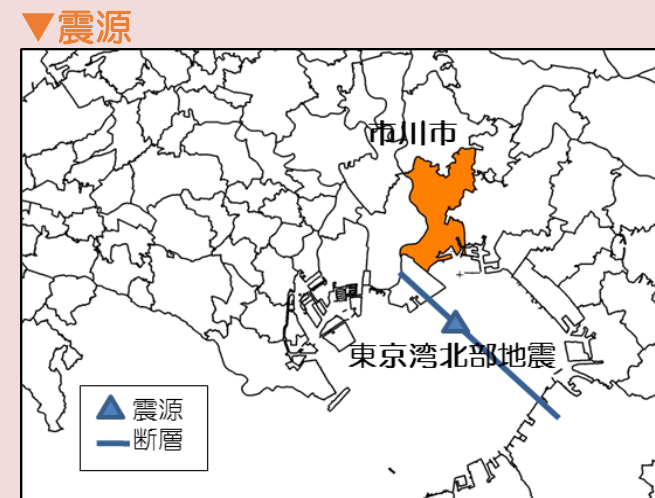
(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図



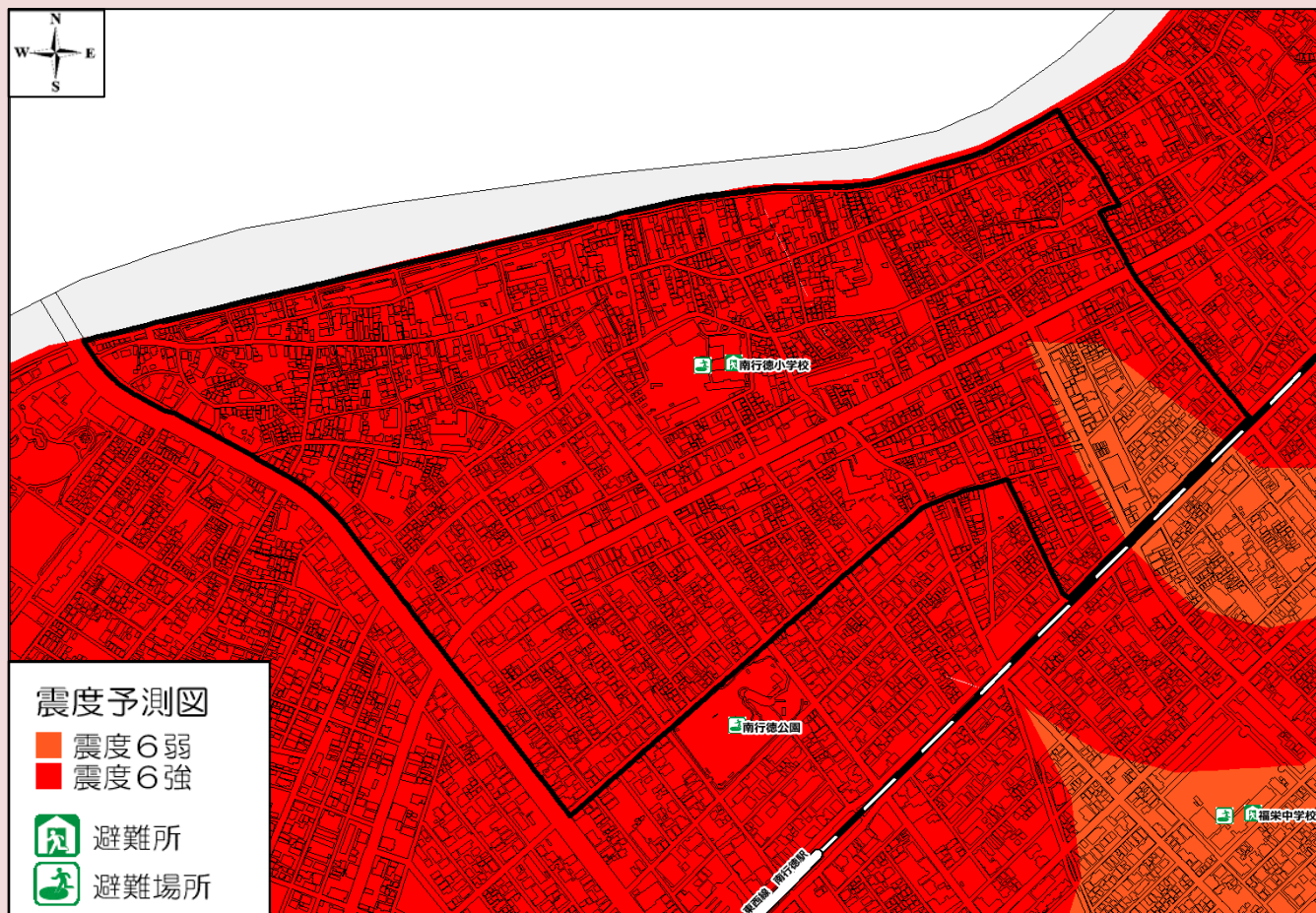
本カルテには、東京湾北部を震源域とする地震が発生した場合の結果です。震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度6強と予測されています。

想定地震	東京湾北部地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：20km程度)

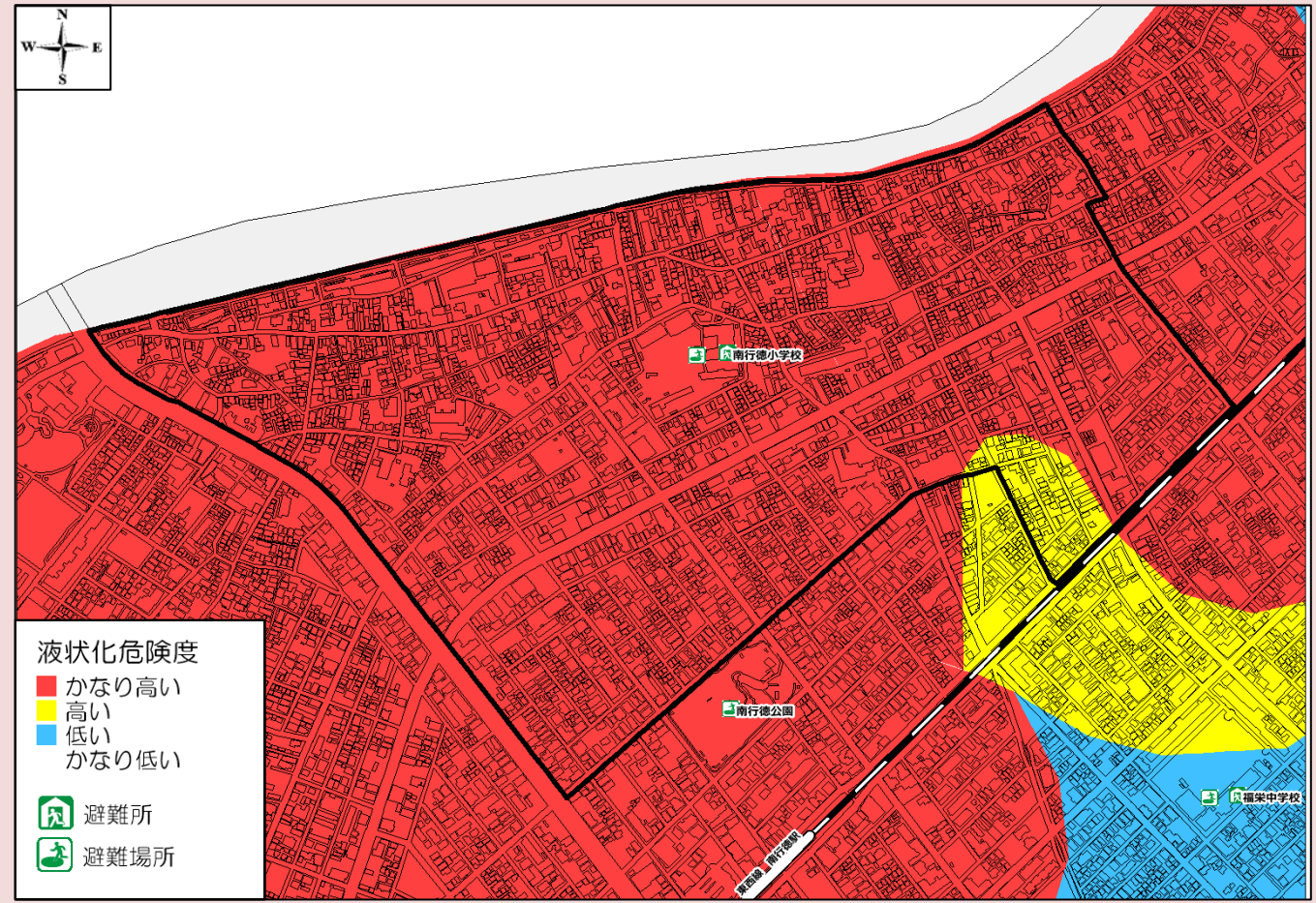


※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

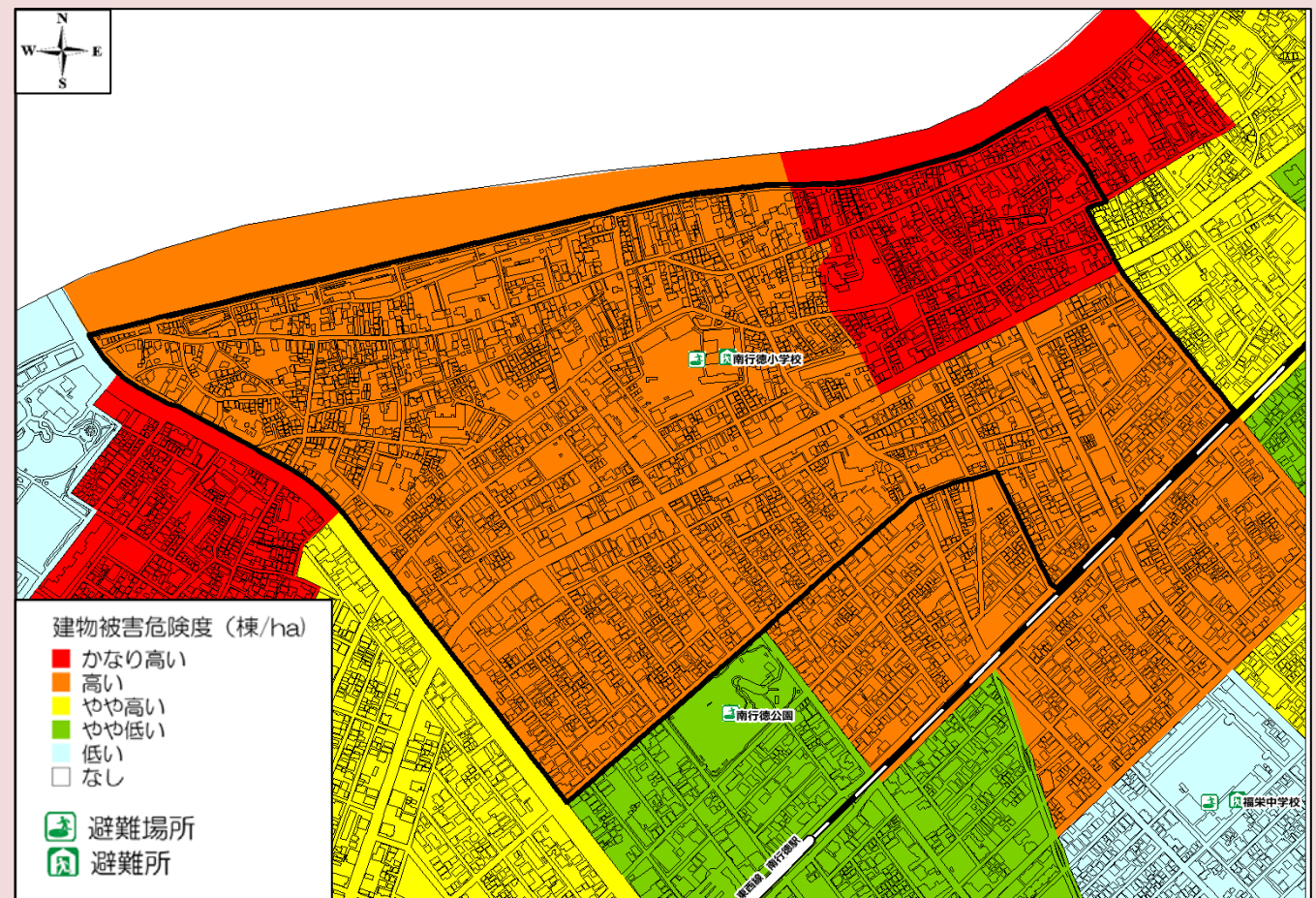
②震度分布図



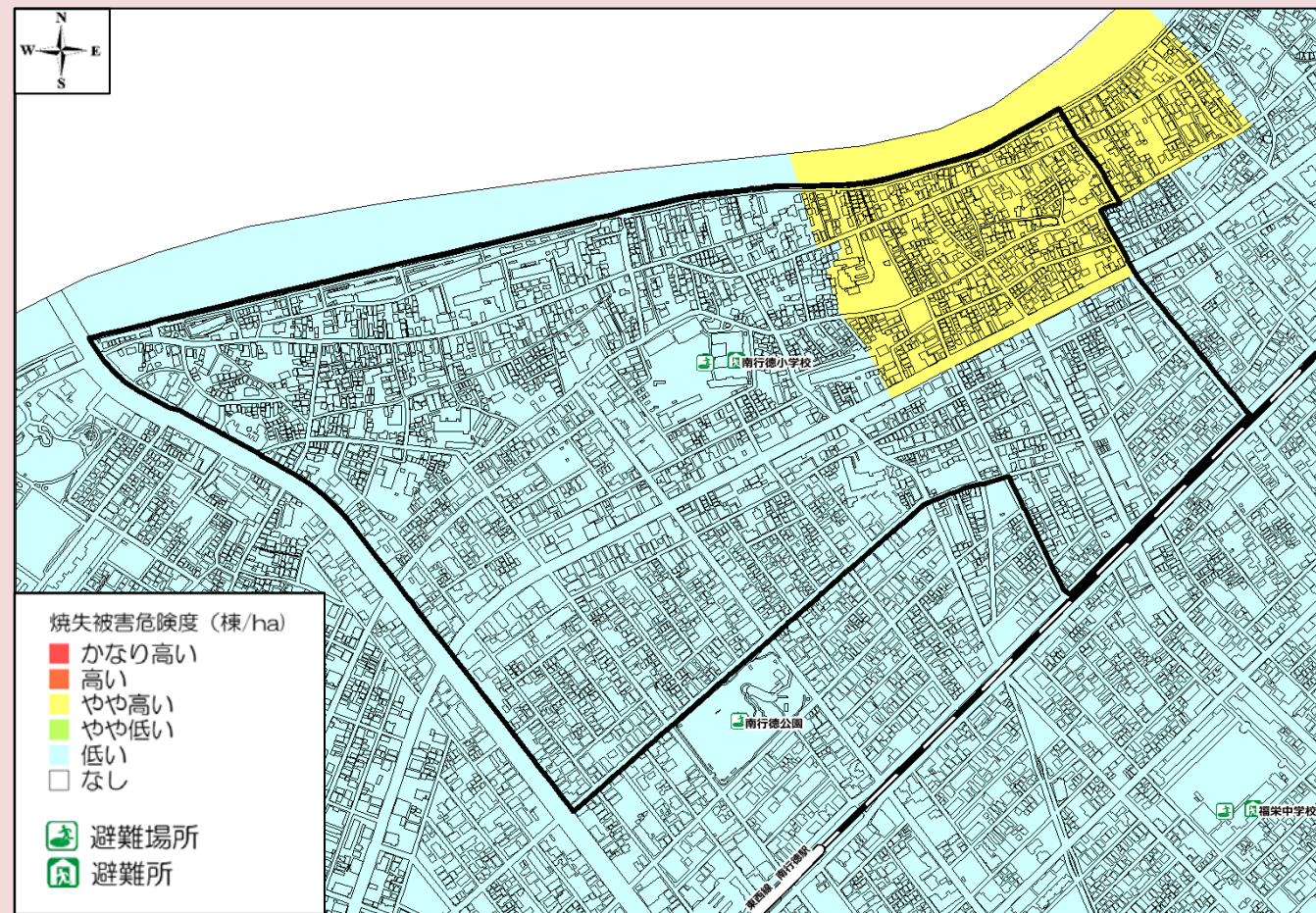
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

水の深さ

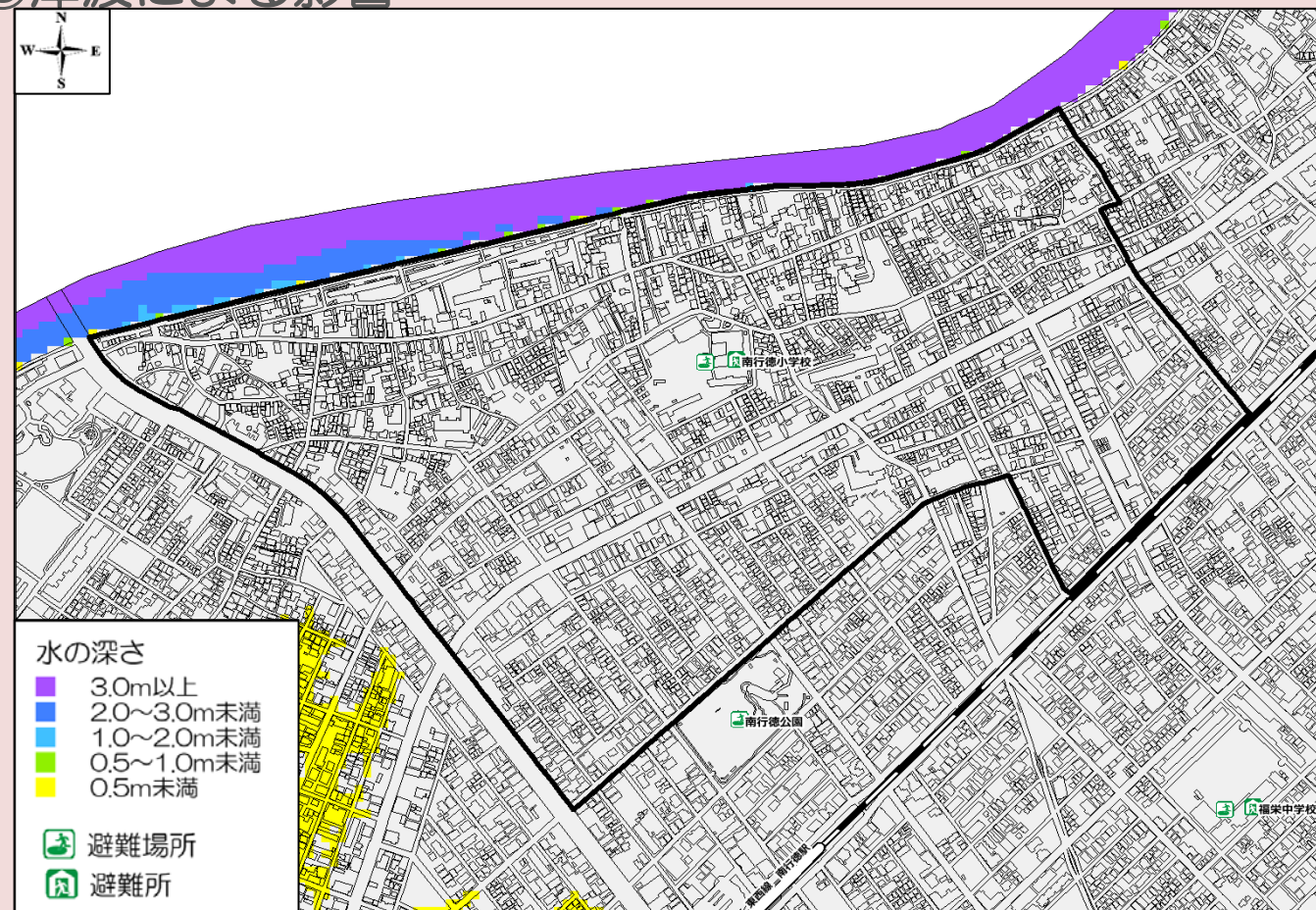
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0~3.0m未満
- 水の深さが1.0~2.0m未満
- 水の深さが0.5~1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

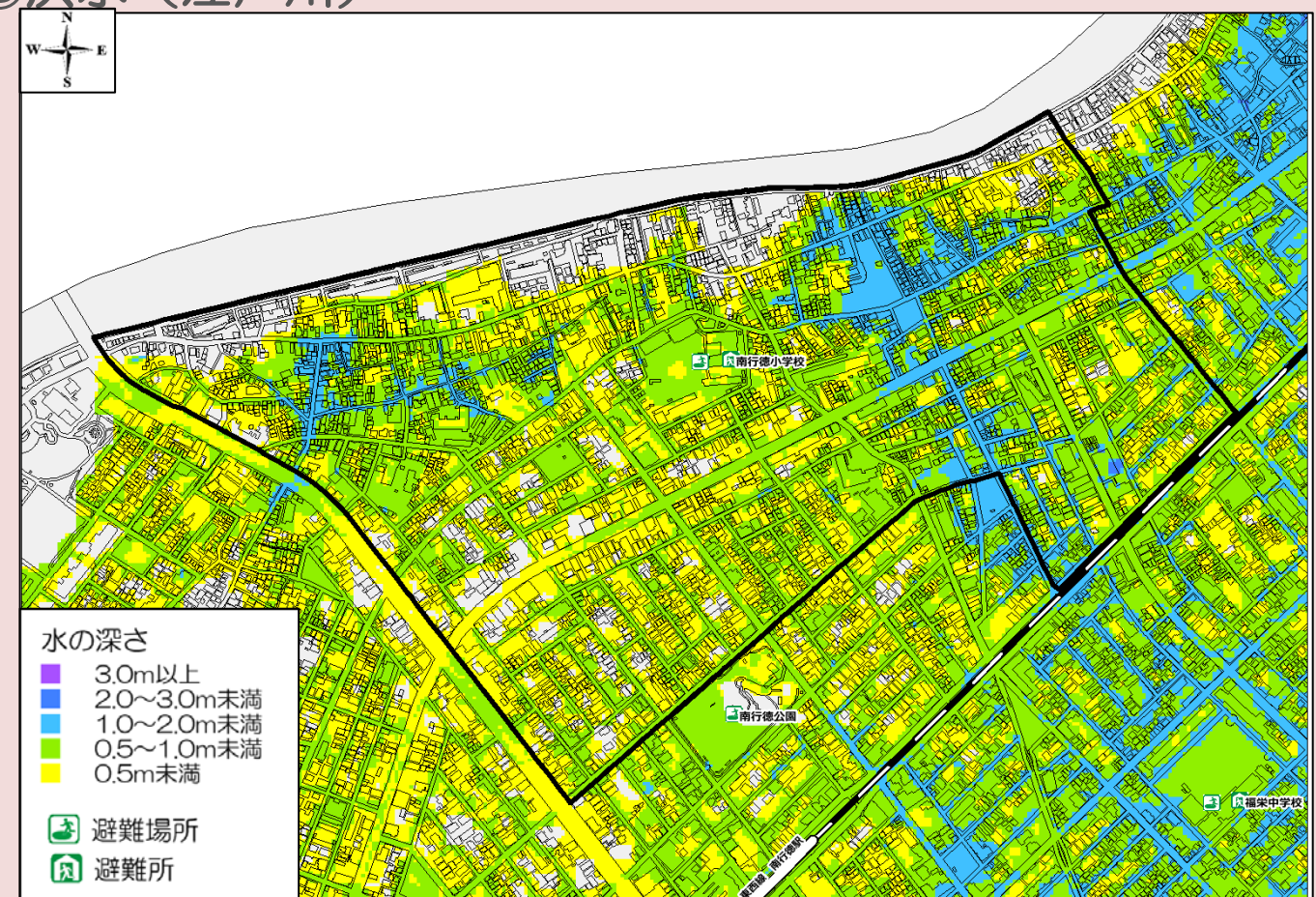
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

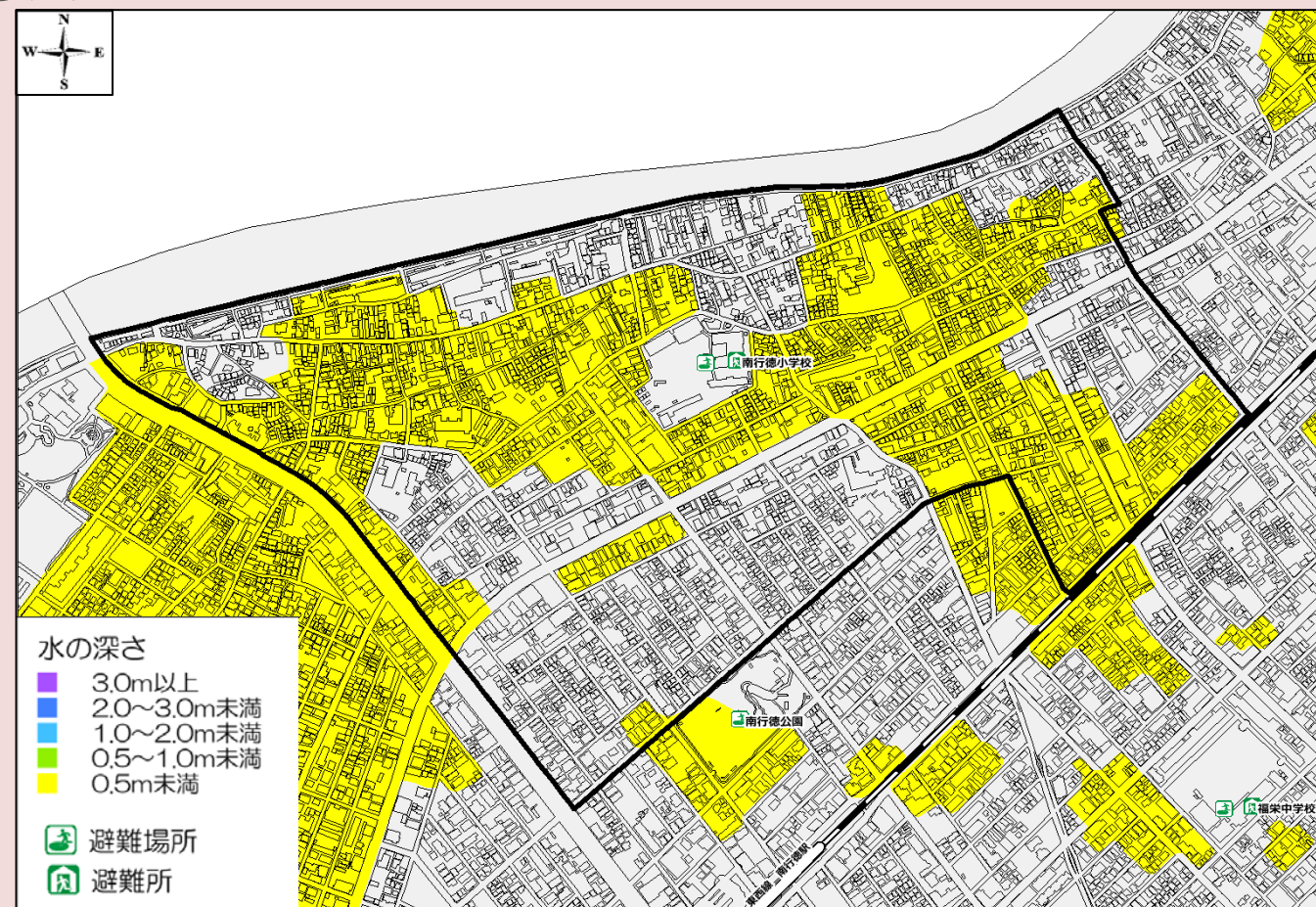
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



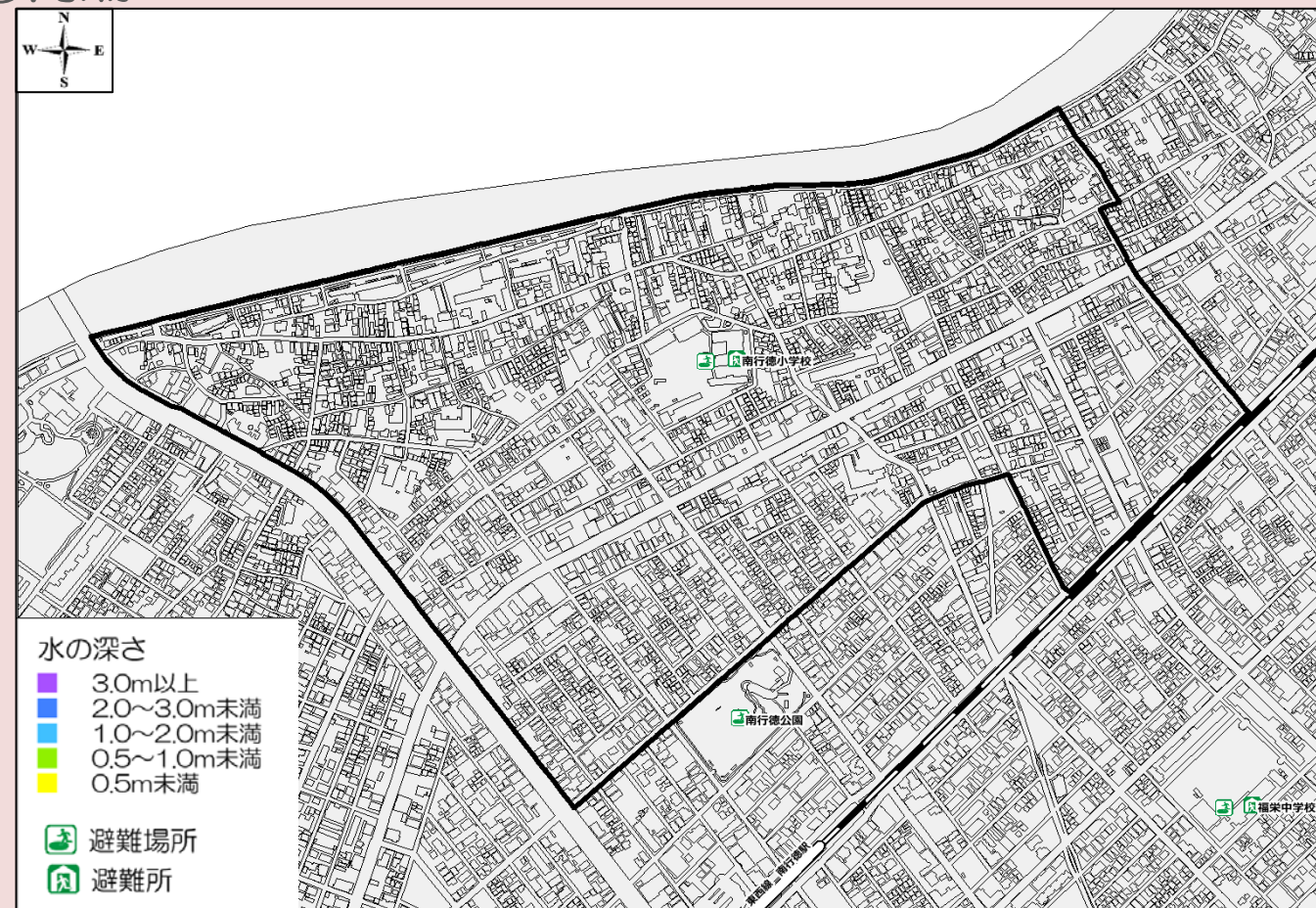
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



平成18年3月：千葉県、市川市

⑩高潮



平成21年4月：国土交通省

◆メモ

